

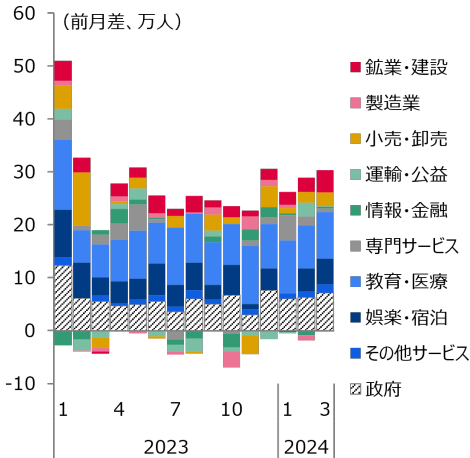
米国

雇用統計 (2024年3月)

移民増に支えられた雇用の高い伸びは、FRBの利下げを妨げない

政策・経済センター
浅井優汰
03-6858-2717

1 産業別の雇用者数



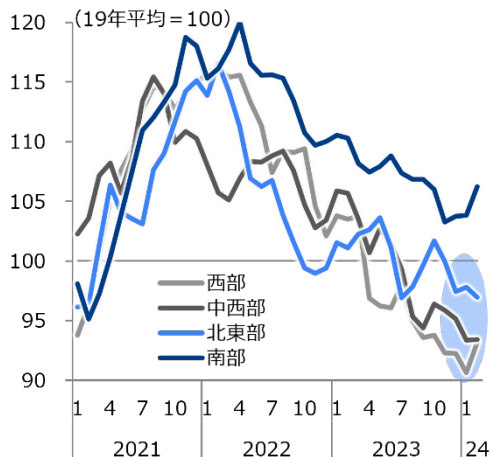
出所：米国労働省より三菱総合研究所作成

2 パート・フルタイム雇用者数、女性の労働参加率



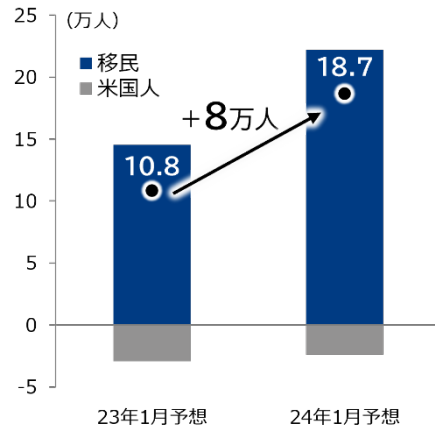
注：雇用者数は、図表1とは異なり、農業部門を含み、3か月移動平均値。点線は労働参加率・雇用の19年平均値。
出所：米国労働省、Macrobondより三菱総合研究所作成

3 地域別の採用者数



注：3か月移動平均値。直近は24年2月。
出所：米国労働省、Macrobondより三菱総合研究所作成

4 景気・物価に対して中立的な雇用の伸び (24年平均)



注：23年1月、24年1月のCBOの移民流入数・人口増加率・自然失業率の見通しを基に潜在的な雇用者数を試算。
出所：米国労働省、CBO、Macrobondより三菱総合研究所作成

評価ポイント

今回の結果

- 3月の非農業部門雇用者数は前月差+30.3万人（前月同+27.0万人）と伸びが拡大した。産業別では、人手不足が続く教育・医療（同+9万人）や娯楽・宿泊（同+5万人）のほか、データセンターや国内生産回帰を受けた建設需要の増加を映じ、鉱業・建設（同+4万人）も堅調だった（図表1）。
- 失業率は3.8%と前月（3.9%）から低下、労働参加率は62.7%と前月（62.5%）から上昇した。平均時給上昇率は前年比+4.1%（前月同+4.3%）と雇用が堅調な中でも賃金上昇圧力は緩和しつつある。

基調判断と今後の流れ

- 労働市場は堅調に推移している。もっとも、雇用の高い伸びは、①女性の労働参加拡大と②移民増による労働供給の改善に支えられている面が大きいとみる。
- ①について、形態別の雇用を見ると、パートタイムの増加が著しい。背景には、在宅勤務の進展などに伴い、パートタイムの6割を占める女性の労働参加の拡大がある。実際、女性の労働参加率は19年平均を2%pt弱上回る（図表2）。
- ②について、移民流入数は、直近で長期傾向を約220万人上振れている。地域別の新規採用数を見ると、移民が急増している南部では採用数が堅調に推移している一方、南部以外では19年平均水準を割り込んでいる（図表3）。
- 先行き、金融引き締めによる労働需要の軟化を受け、雇用の伸びは前月差+15-20万人程へ鈍化すると予想する。ただ、教育・医療、娯楽・宿泊の雇用数は長期傾向を200万人下振れており、両産業では積極的な採用が続くだろう。
- 金融政策について、雇用の高い伸びが続く中でも、FRBは24年央頃に利下げに転じると予想する。実際、急速な移民流入を受け、景気・物価に対して中立的な雇用の伸びは前月差+19万程へと切りあがっている（図表4）。移民増は、労働需給ひっ迫の緩和を通じて、サービスインフレの抑制に寄与するとみる。
- もっとも、移民増は住宅不足などを招き、インフレを再燃させる恐れもある。今後の物価・賃金指標が上振れた場合、FRBの利下げは年後半に後ずれするだろう。